

W 町民のみなさんと議会をつなぐ

# ぴっぷ議会だより

No.126

令和8年2月



【表紙】「ヘッドマークが素晴らしい」

白寿大学 写真クラブ 木村 宣昭さん（寿町）撮影

P4 一般質問 ズバリ！ここが聞きたい

植西 浩一 議員 / 佐藤 良彦 議員  
遠藤 ハル子 議員 / 谷口 雅浩 議員  
八巻 良博 議員 / 今井 明信 議員

P14 常任委員会合同行政視察調査

P18 広報委員が聞く！町民インタビュー



# 議場で交わされた討論 その結果とは

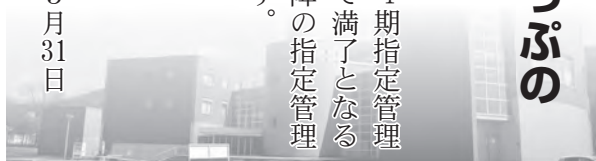
令和7年第4回議会定例会及び第5回・第6回議会臨時会、令和8年第1回議会臨時会がそれぞれ開かれ、提出された議案を慎重に審議しました。  
今号では、主な審議内容を3つピックアップし、ご紹介します。

〈第4回議会定例会〉

## 良佳プラザ・遊湯びつぷの 指定管理者を指定

良佳プラザ・遊湯びつぷの第4期指定管理期間が令和8年3月31日をもって満了となることから、令和8年4月1日以降の指定管理者を次のとおり指定するものです。

- (1) 指定管理者に指定する団体  
株式会社 荒尾
- (2) 指定する期間  
令和8年4月1日～令和11年3月31日



### 議員の質疑・町の回答

**Q** 指定管理について、今後3年間の方針をどのように考えているのか伺いたい。

**A** 物価高騰により食材費や人件費が上昇し、長期的な経営判断が難しい状況にある。びつぷスキー場やグリーンパークびつぷも含め、今後の運営方法について検討していく必要があると考えている。

### 議員の討論



反対

遊湯びつぷの修繕を想定しながら指定管理を続けることは、財政面でも大きなリスクがあると考えられる。新庁舎建設に伴い、基金の減少も見込まれることから、公共施設については、取捨選択を行うべき時期にきている。以上の理由により本議案に反対する。(植西議員)



賛成

現指定管理者は、民間ならではのノウハウを活かし、運営面で評価を高めている。町内雇用の創出などにも貢献し、集客や売り上げ向上に向けた目に見えない努力も行われている。こうした取り組みと今後の可能性に期待し、本議案に賛成する。(大熊議員)



賛成

財政は厳しいが、雇用や経済効果も大きい。びつぷスキー場、遊湯びつぷ、グリーンパークびつぷなどの魅力は町の個性と発信力を高め、将来の世代がこの町を選ぶ理由となる。将来を見据えた投資として、本議案に賛成する。

(八巻議員)



賛成

現状はまだ運営面で十分な力を発揮できていないと感じているが工夫次第でさらに伸びる可能性がある。良佳村エリアの施設は、まちづくりの核となる存在であり、運営を強化することで町全体の評価向上にもつながる。その期待を込めて、本議案に賛成する。(佐藤〈良〉議員)

### 採決

賛成…7人  
反対…1人

【賛成多数により原案可決】

※議長は議事運営上、賛否同数となった場合以外は採決に加わりません。

### ※質疑と討論

質疑は、議案の内容について、疑問点をただすもので、討論は議案に対して賛成・反対の意見を表明し、意見の異なる議員を自己の意見に同調させるための最終的な機会となります。

〔第6回議会臨時会〕  
児童手当受給対象世帯に  
「物価高対応子育て応援手当」支給

国の令和7年度補正予算において、児童手当受給対象世帯に対して実施する「物価高対応子育て応援手当」について、対象児童一人当たり一律2万円を原則プッシュ型で支給するものです。

なお、対象児童を437人と積算し、事務費をあわせて940万1千円を増額補正します。  
また、事業に充当される財源は10分の10国費対応となります。

〔第1回議会臨時会〕  
物価高騰等に伴い

「生活応援商品券給付事業」等を実施

国からの物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用し、次の事業を実施するものです。

(1) 2026生活応援商品券給付事業：登録された町内事業所で使用できる商品券を町民一人当たり1万5千円分給付する。

(2) 住民税非課税・均等割のみ課税世帯に対する臨時特別給付金：令和7年度住民税非課税等世帯に対し、一世帯当たり1万円を原則プッシュ型で現金給付する。

■第5回議会臨時会（令和7年11月27日開催）議決結果■

件名	結果
議案第1号 損害賠償額の決定について	原案可決
議案第2号 議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例について	原案可決
議案第3号 特別職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について	原案可決
議案第4号 職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について	原案可決
議案第5号 令和7年度比布町一般会計補正予算（第5号）について	原案可決
議案第6号 令和7年度比布町公共下水道事業会計補正予算（第1号）について	原案可決

■第4回議会定例会（令和7年12月4日開催）議決結果■

件名	結果
議案第1号 連携中枢都市圏形成に係る連携協約の一部を変更する協約について	原案可決
議案第2号 指定管理者の指定について	原案可決
議案第3号 比布町乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定について	原案可決
議案第4号 令和7年度比布町一般会計補正予算（第6号）について	原案可決
議案第5号 令和7年度比布町国民健康保険特別会計補正予算（事業勘定）（第2号）について	原案可決
議案第6号 令和7年度比布町介護保険特別会計補正予算（第2号）について	原案可決
議案第7号 令和7年度比布町観光事業特別会計補正予算（第2号）について	原案可決
常任委員会行政調査報告について（P12参照）	報告

■第6回議会臨時会（令和7年12月23日開催）議決結果■

件名	結果
議案第1号 議決事項の一部変更について	原案可決
議案第2号 令和7年度比布町一般会計補正予算（第7号）について	原案可決

■第1回議会臨時会（令和8年1月15日開催）議決結果■

件名	結果
議案第1号 副町長の選任について	同意
議案第2号 令和7年度比布町一般会計補正予算（第8号）について	原案可決



# 学校は子どもたちの希望となっているのか

北川教育長

## 平等プラス個々のニーズに合わせた公平性が大切



うえにし こういち 植西 浩一 議員

□質問・植西議員

教育経済学というものを中心に質問します。

全国的に不登校児童生徒が増えていると言われていますが、そもそも不登校があつてはならないものであることが前提になり、解決方法が見出せないのではないかと懸念しています。もっと「生きる力」を身につけるために何ができるのかを考え、アップデートしていくことが大切だと思います。

■答弁・北川教育長

教育機会確保法を受け、文部科学省は、学びにつながることでできない児童生徒をゼロにすることを目指し、「COCCOLO（こころ）プラン」を公表しました。

これは児童生徒の学びの確保、心の小さなSOSを見逃さず「チーム学校」での支援、「学校風土の見える化」を通して、学校を「みんなが安心して学べる」場所とする3つの柱によって構成されています。

支援が必要な子どもたちが学びにつながるようにすることや誰もが安心して学べる場に変えることを、今すぐできる取り組みから速やかに実行し、一人一人が多様な選択肢を広げ、社会的自立を目指すための学校となるよう、全力を尽くします。

□植西議員 文科省も「生きる力」

を身につけることを教育目標にしていますが、学びにつながれなかった子どもたちが大人としてどうなったのかを追ったデータはあるのでしょうか。

■北川教育長 約8割の方々は就職あるいは進学につながっているといたデータが残っていると記憶しています。

□植西議員 子どもたちにどのような方向性を持ってほしいとか、生きる力を身につけてほしいなどの地域の要求を聞くための一つのアイテムとして、学校運営協議会はどうのように運営されていますか。

■北川教育長 本協議会は今年で6年目を迎え、できるだけ子どもたちと関わりのある方を中心に、学校管理職や主幹教諭で構成しています。その中で、本町の子どもたちに求める姿などをテーマに熟議し、その内容を学校に持ち帰って共有しています。義務教育学校の卒業時には、社会で生きていくために必要な力を身につけられるよう努力しています。

□植西議員 教育経済学では、「非認知能力」が生きる力であると言われています。これを鍛えるのは就学前であるとのことですが、現状をお聞かせ下さい。

■北川教育長 継続して、そのよ

うな能力を培うような取り組みをしていかなければならないと考えており、より多くの体験や経験を育んでもらうため、子どもたちが様々な活動に取り組めるよう「比布アドベンチャーズ」などの社会教育事業を行っています。

また学校長・教頭会議に園長を招いて情報交換をしたり、学校運営協議会の中でも認定こども園の様子を情報提供しています。

□植西議員 平等な教育、公平な教育について考えをお聞かせ下さい。

■北川教育長 教育において、平等は、すべての子どもたちに同じ条件や機会を与えることで、公平は、それぞれの子どもたちの個性や状況の違いを認め、個々のニーズに合わせるのだと思います。これが2つとも噛み合わなければ、公教育の在り方ではないと思います。

### ※非認知能力

意欲、忍耐力、協調性、自己肯定感、やり抜く力など、数値化が難しい内面的なスキルの総称。幼児期からの経験や遊びを通じて育まれると注目されている。





一般質問 スバリ！ここが聞きたい

## 振興公社設立の再考について

村中町長

### 新たな法人を設立することが有効と考えられる分野もあるため検討する

□質問・佐藤議員

地方自治体の課題として、組織上の問題で意思決定が遅れる。システム上の課題により対応の流れが悪化している。また、限られた職員数で多くの業務をこなさなければいけなく、新たな施策の実行が遅れてしまう。更には、町民からの要望も多様化し、対応する職員の実務が維持できなくなるなど、スピード感ある課題解決は困難と理解しています。

現在、役場内でも各課横断的なプロジェクトを立ち上げ、前向きに取り組んでいることは大変良いことだと考えます。

将来、新庁舎の建設も予定され、デジタル化が更に進むと考えられ、様々な課題に対してスピード感を持って取り組むため、振興公社の良い特性を活かし、事業展開できる可能性もあると考えますが、町長の考えを伺います。

■答弁・村中町長

第三セクター方式による地方公社は、地域振興の手法の一つとして全国的に数多く設立され、近隣自治体においても多く活用されており、民間の経営手法により地域資源の特性を有効に活かしながら行政だけでは難しい事業を展開しています。

しかし、経営の悪化により自治体が財政的な負担を負う事例も少なくなく、多くは行政からの業務委託料で実質的な経営が成り立っている状況で、本来の目的である民間企業のノウハウが活かされず経営が硬直化する恐れもあります。

限られた職員数の中では、多様化・高度化する町民ニーズへの対応や新たな事業への着手に時間を要する場合もあり、また、施設管理の委託先となる事業者も減少傾向であることから、これらの課題解決に向けスピード感を持った取り組みの必要性は十分認識しています。

課題解決の方法として、行政だけでは対応が難しい分野やスピード感を要する事業においては、民間手法による選択肢の一つである振興公社は有効な手段であると考えていますが、事業目的の明確化や運営法人の形態、その採算性に加え本町の地域特性が活かされることなど十分な研究が必要とも考えています。

本町の課題解決に向けて、新たな法人を設立することが有効であると考えられる分野もあるため、参考となる自治体への視察などを行い、本町の実情にあった法人の設立について検討します。

## 地

域活性化起業人制度の運用について

□佐藤議員 比布町の人口推移は、2025年9月現在で3,333人と減少の一途をたどっています。

高齢化率が高く、生産年齢人口が減少していく中、移住に向けた取り組み強化として地域活性化起業人制度を活用し、経験者を迎え入れると聞いていますが、地域活性化起業人などのような取り組みを行なっていくとお考えなのか伺います。

■村中町長 人口減少による最大の課題は、あらゆる分野で担い手が不足することです。

地域活性化起業人として採用した方は、公益社団法人ふるさと回帰・移住交流推進機構で、7年間にわたり移住相談の北海道担当として数多くの移住相談に関わってこられ、移住希望者や検討している方の不安や望んでいる環境、移住の成功、失敗事例などの見識が豊富な方です。想定している取組みは、専門的な知見を活かしながら、本町の地理的、政策的な資源などの中でPRすべきポイント整理した上で、実際に移住してもらったための課題解決についてもアドバイスをいただきたいと思います。



## 静かな図書館から 「にぎやかな図書館」施設に

北川教育長

### 町民の皆様からのご意見等を十分考慮し よりよい図書館運営に努める



えん どう はる こ  
遠藤 ハル子 議員

□質問・遠藤議員

現在、休館日や開館時間の見直しに向けた試験運用が行われていますが、町民の中には「これで図書館の役割が十分に果たせるのか」との声があります。今後どのような方向で図書館を整備・運営していく考えをお伺いします。

また、図書館の利用者数の伸び悩みが課題となっている現状がある中、全国では、会話や軽食、学習、交流など多目的に利用できる「にぎやかな図書館」が広がり、まちづくりの拠点として注目されています。本町においても、図書館を地域交流や世代間のつながりを生む拠点として活用する考えがあるのか教育長の考えをお伺いします。

■答弁・北川教育長

試験的運用を通して、町民の皆様からいただいたご意見や感想を十分考慮し、これからのよりよい図書館運営に努めていきたいと考えています。

近年、「図書館は静かに本を読む場所」という常識が大きく変わりつつあり、「にぎやかな図書館」といった新しい形の図書館が生まれてきています。

図書館の本質は、「人が集い、考え、行動を生み出す場」にあり、静けさと賑わいが共存する空間、誰もが自然に学び、語り合える環

境は、地域の新しい可能性を探る手がかりがあるように思います。

本町の図書館は、これまでも多少の会話は禁止しておらず、また、ペットボトルや水筒などに入った飲み物は許可していますが、図書館利用以外での地域交流の場としての役割は担っていない状況です。ので、町民の皆様の生活をより豊かにし、まちづくりにもつながる施設として発展できる図書館運営を検討していきます。

□遠藤議員 例えば図書館を考える会や町民と共に作る図書館会議、パブリックコメントなど、図書館について一緒に考える場を設けるなど、新庁舎の図書館をどのように作っていくのか町長の考えをお伺いします。

■村中町長 複合庁舎については、まだ基本設計の段階のため確定したことはお知らせできませんが、ゆつくりと静かに本を読める図書館とは別に、新しい複合庁舎内に新聞や雑誌のコナーを設け、子どもたちが少し騒いでもいい「にぎやかな図書館」のような場を設けるなど、全て同じ場所にしない方法もあると思っています。

図書館を縮小する方向ではなく、より利用できるような仕組みがでないか考えています。図面も確定していませんが、図書館は維持していきたいと思っています。

## 街

中ベンチを設置する考えは

□遠藤議員 高齢者が自宅で安心して暮らし続けるためには、外出しやすい環境づくりが欠かせません。しかし、「歩き疲れたらどうしよう」「トイレが近くにない」「暑さや寒さが心配」などの理由から、外出を控える高齢者も少なくありません。

街中ベンチの設置や休憩できる場所の整備について、どのようにお考えですか。

■村中町長 生活支援体制整備事業の委託先である生活支援コーデイネーターを中心に、「びっぷの和」として、町民と行政が協力しながら地域の声を聞き、「地域資源の把握・発掘により、高齢者が真に求める支援・サービスの構築を図る」活動を進めています。

道路法や交通上の安全性も視野に入れながら「びっぷの和」を中心に、本町においての進め方を協議していきます。

□遠藤議員 「あなたのベンチ」「誰でも座れるベンチ」などの表記をするなど、各課とも連携して実現してほしいと思います。

■村中町長 良い事業だと思えますので、関係課とも協議をしていきたいと思っています。





一般質問 スバリ！ここが聞きたい



谷口 浩 議員

## 町のクマ対策について

村中町長

### 安全確保のため 今後有効な方策について検討する

□質問・谷口議員

環境省によると、今年度のクマ被害による死者数は全国で13人（11月5日時点）となり、統計を取り始めた2006年度以降で過去最悪の数字を記録しています。

クマが人里や市街地に降りてくる要因として、えさ不足が深刻化しています。

地域によっては、イベントの中止や保育園、小学校の送迎強化など生活や経済活動に大きな影響が出ています。町内においてもクマの目撃により良佳村エリアの施設閉鎖が繰り返されています。

そうしたことから次の3点について町長に伺います。

(1) 町内には、北4線から北1線（19区から15区）にかけて総延長1720mの電気柵が設置されていますが、これはシカが用水路への転落防止のものであり、クマ対策になっていません。そこで、人をクマから守る対策として良佳村エリアに電気柵を設置する考えはありますか。

(2) 自治体によっては、公務員が獣害対策を担当するガバメントハンター（公務員ハンター）を置いています。狩猟だけでなく野生動物の行動、生態などの知識を身につけて地域の獣害対策を担う職員に

なります。町として役職を設置する考えはありますか。

(3) 9月1日より市街地に出没したクマを各市町村の判断で駆除できることが可能になりました（緊急銃猟）。これは、住民の生命を守るために必要な措置と思いますが、町の考えを伺います。

■答弁・村中町長

(1) について、比布幹線沿いに設置された電気柵は、平成25年に、当時の東地区環境保全活動組織において、主にエゾシカの農地への侵入と用水路への転落防止を目的に設置された施設で、毎年、春に設置し、設置期間中の草刈り、秋には撤去するなど地域の方が管理されています。

熊対策の電気柵は、侵入を防ぐことができる有効な方法であると考えられており、商工観光課においてもヒグマ出沒への対策は検討をしています。良佳村エリアのキャンプ場では幼児や児童の利用が多く、誤って電気柵に触れる可能性もあるため、来場者への安全配慮や設置場所などにも課題があり、設置については困難であると考えます。

今シーズンも、カメラを設置して毎日確認してきましたが、利用者の安全確保のため、今後も有効な方策について検討してまいります。

(2) について、近年の鳥獣被害の深刻化や有害鳥獣駆除の担い手不足などを背景に、その取り組みは、全国的に注目されているところです。

有害鳥獣駆除を担っていたたいてい本町猟友会の会員数は14名で、うち11名が銃器によりヒグマを駆除できる資格を有しています。狩猟を生業としている会員がいること、また、北海道では専門的な対応の必要性が高い事案に対し、専門家を現地に派遣する「ヒグマ緊急時等専門人材派遣事業」の仕組みを利用できることから、早急にガバメントハンターを配置する考えはありません。

(3) について、本年9月1日に改正鳥獣保護管理法が施行されたことに伴い、市街地等に侵入したクマ類を市町村長の判断で猟銃使用を許可できることとなりました。本町では、施行日に合わせ、緊急銃猟で生じた物的損害などが補償される緊急銃猟時補償用保険に加入するとともに、施行日前から、猟友会や旭川中央警察署などと、実施を想定した協議を重ねています。

緊急銃猟の実施は、住民の生命を守るための必要な措置と判断した際は、やむを得ないものと考えています。



# 早期発見の大切さ 町民健診の受診促進について

村中町長

安心して健診を受けられる体制を充実させ  
多くの方に受診いただけるよう努める



やまき よしひろ  
八巻 良博 議員

□質問・八巻議員

私は今年、保健師からの電話をきっかけに健診を受診し、がんの早期発見につながりました。複数回の入院・手術を経験しましたが、いずれも早期であったため、放射線治療や抗がん剤治療は不要でした。まさに「健診の重要性」を強く実感しています。医療技術が進んだ今こそ、まずは受診につなげることが重要です。町として、町民への周知や受診促進をどのように強化していくのか伺います。

■答弁・村中町長

町民の健診受診の促進は、生活習慣病やがんの早期発見・早期治療につながる非常に重要な取り組みであると考えます。

本町の特定健診受診率は52%台で推移しており、国の目標である60%には届いていませんが、一人でも多くの方に受診していただくために、これまで受診勧奨方法等も年代に応じた対策を講じてきました。

特定健診については、特に40歳代、50歳代の受診率が低いことが課題であり、令和2年度からこれらの年代の方を重点とした案内文の発送や電話、訪問での受診勧奨に取組んだ結果、受診率は近年40%から45%へと向上しています。

多忙な年代であり受診まで結びつけることは難しい面もありますが、粘り強く勧奨を続け、高齢期の受診率向上にもつながっていきたいと思います。

また、特定健診を受けない理由の多くが「通院中」であることから、ご本人を通じてかかりつけ医から検査データの提供をいただく「みなし健診」を実施し、特定健診受診率の向上及び保健指導の強化を図っています。

がん検診については、体の変化が起こりやすい、48歳の男性と49歳の女性を対象に、令和6年度より町単独事業として、がん検診無料クーポン券「いつとこクーポン」を発行しています。このクーポン券がきっかけとなり、これまでがんと検診を受けていなかった方が受診され、翌年度の受診にもつながっています。

加えて、精密検査が必要となった方で未受診の方に対しては、再度電話等で受診勧奨を行い、早期発見・早期治療につなげています。

今後も、町民の皆さまが日々を健康に過ごすことができるよう、健診の大切さを伝え、安心して健診を受けられる体制をさらに充実させ、多くの方に受診いただけるよう努めます。

□八巻議員 働き盛り世代の40代、50代の受診率が低い状況です。私の体験のように、早期であれば治療の負担も小さく、安心して生活を続けられます。体験談を活用したPRや、受診しやすい環境づくりをさらに進めていただきたいと考えます。

■村中町長 実体験に基づくメッセージは説得力のある記事になると思いますので、広報紙等で健診の重要性を発信するとともに、ご協力いただける方の体験談も紹介しながら、町民にPRしていきたいと思えます。

□八巻議員 バリウム検査への抵抗感から受診をためらう声もあります。負担の少ない内視鏡検査の周知や、びっぷクリニックを活用した夜間の健診など、より受診しやすい体制の整備についても検討をお願いします。

■村中町長 健診バス更新に伴い、集団健診の在り方を見直しているところです。びっぷクリニックや旭川市の病院の活用などについて検討を進め、町民が安心して健診を受けられる体制づくりに努めます。





一般質問 スバリ！ ここが聞きたい

## 公共施設としての 図書館の在り方について

北川教育長

### 次年度から町民一人一人のことを考えた 図書館運営を行いたい

□質問・今井議員

平成15年に開館した比布町図書館はこれまで多くの町民の利用があり、老若男女問わず、特に児童には大切な学びの場所であります。

図書館の利用は必ずしも図書を読む事に限らず勉強の場、バスやJRの待ち時間、余暇を過ごす場所でもあり自宅や学校、職場とは別な「第三の場」としての大きなスペースでもあります。

しかし、近年は全国的に財政難等の理由で新刊の購入が出来ない等、図書館をめぐる状況は厳しいようであり、本町も図書館の利用減少などを理由に休館日を月曜日から日曜、月曜、祝日に変更しています。

休館日の変更は令和8年度からの休館日、開館時間の見直しに向けた取り組みですが、次の3点について、教育長に質問します。

- (1) 本町図書館の新刊購入状況
- (2) 図書館職員の増減検討
- (3) 公共施設として図書館の在り方

■答弁・北川教育長

(1) 図書購入予算は200万円で、一般書と児童書の購入冊数は昨年度1,062冊、令和5年度1,147冊と減少している状況です。近年の物価高騰の影響により、新刊書籍1冊当たりの平均価格が上昇していることがあげられ、出版

科学研究所のデータによりますと、令和5年上半年の平均価格は1,317円で、前年同期比4.9%増加しているようです。

利用者からのリクエスト本を購入できないことも、図書館が所蔵していない資料を、他の図書館から借りて貸し出しが行える北海道立図書館の相互貸借制度も活用している状況です。

(2) 現段階の開館状況や業務量であれば、現状の3人体制で運営が可能と判断していますが、図書館にどこまでの機能を持たせるかによりましては、増員の検討も必要と考えています。

(3) 情報・知識の提供拠点、社会課題解決の支援、地域コミュニティの形成、文化・知の継承と創造などの役割を踏まえていることが重要と考えます。

□今井議員 本町の令和6年度の図書館費が1,434万4,000円であり、図書購入に支障はなかったと考えますが、旭川市では図書購入が10年間で45.9%減少しており、購入できない状況が続いているようです。本町の図書館は今後も図書購入を維持していけるのでしょうか。

■北川教育長 一般書並びに児童書の購入は今後も維持させていきたいと考えています。図書館の職員

が日頃の貸出状況や児童の興味、関心のある図書を考察しながら購入しています。

□今井議員 旭川市では利用者増の取り組みの一つとして新小学校1年生へ図書館利用カードを一括交付しているようです。本年、新たに中央ふれあい広場が整備され、多くの子どもが来園がありますが図書館に繋げるなど、利用者増への新たな取り組みを伺います。

■北川教育長 日曜日に中央ふれあい広場に遊びに来てくれた子どもたちが、何かの形で図書館に来館する機会があれば有意義と考えます。

□今井議員 一方で図書館は公共施設です。公共施設は利用者の大小等、採算が取れなくても必要な施設です。誰もが知識や情報を得ることができる知的インフラ施設でもあり、集客の施設ではありません。試験的運用は経費や利用者の大小が理由にあるのか。公共施設として日曜日、祭日の開館が望ましいと改めて考えています。

■北川教育長 経済的な理由等で試験的運用をしているわけではありませんが、これまでの利用状況を見て、日曜日しか利用できない方もいらつしやいますので、改めて町民一人一人のことを考えた図書館運営を次年度から行いたいと思っています。

# 委員会のactivities



**Q**…委員からの質疑  
**A**…担当からの回答

## 総務常任委員会

11月21日開催

### 税務住民課

#### 《報告事項》

■令和7年度町税等の収納状況  
(10月末)

**Q**国保税の滞納額が増えた要因は。

**A**収入増で税額が増え、滞納者数が増えたことも要因のひとつ。滞納が増えないようしっかり対応する。

#### ■上川広域滞納整理機構収納状況

上川広域滞納整理機構は、上川総合振興局管内の9町と大雪地区広域連合が構成団体となり、町等が単独で処理困難な事案を引き受け、滞納整理を行う一部事務組合。

#### 《協議事項》

■第4回議会定例会提出議案  
◇令和7年度一般会計補正予算

### 保健福祉課

#### 《報告事項》

■高齢者等の除雪サービス事業利用状況

(説明) 令和7年11月14日現在の利用世帯数は除雪サービス122件(昨年度128件)、門口除雪サービス73件(同56件)。今後も随時受け付けていく。

#### ■各種健診等受診状況

**Q**胃がん検査にはバリウム検査に加えて内視鏡検査という選択肢がある。内視鏡検査は個人的に身体的な負担が少なく、より楽に受診できると感じる。これらのことを積極的にアピールしてはどうか。

**A**びつぷクリニックで内視鏡検査も実施できるよう進めていく。

#### ■各医療費の状況

#### ■介護保険事業の利用状況等

#### 《協議事項》

■第4回議会定例会提出議案  
◇比布町乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例案  
◇一般会計補正予算・国民健康保

険・介護保険特別会計補正予算

#### 《その他》

■あそか苑の大規模修繕について

### 教育課

#### ▽総務係

#### 《報告事項》

■文化奨励賞贈呈式(11月3日)  
(贈呈者) びつぷ歌謡サークル 11名  
■二十歳のつどい(令和8年1月11日)  
(対象者) 32名

#### ▽学校教育係

■義務教育学校「比布中央学校」の視察(10月22日)  
・北広島市議会議員、教育委員会職員  
■ピピカツ事業の視察(11月5日)  
・今治市議会議員  
■学校部活動の地域展開

(説明) 12月以降に後期課程教諭に対し、教育委員会としての新年度の方針を伝えていき、その後、保護者の皆様にもお知らせしていく予定。

#### ■幼保小連携事業

・学校吹奏楽部保育園訪問演奏会  
・くるみ保育園・前期課程教諭交流会  
▽文化振興係  
■君の夢プロジェクトの開催

・ソフトテニス部(9月14・15日)  
・吹奏楽部(10月10・11日)  
・野球部(11月9日)  
・剣道部(12月13日)  
・心に響く道徳講話(1月21日)  
・卓球部(2月14日)  
■町民芸術鑑賞会(9月21日)  
(演奏者) はからめカルテット  
■町民文化祭(10月31日・11月2日)  
(作品展示) 出展団体…20団体、個人…10名、作品数…1,410点  
(芸能発表) 出演団体…14団体、個人…3名、出演者…118名

#### ▽スポーツ振興係

■第47回全町バレーボール大会(12月7日)  
■町民スキー・スノーボード教室(12月27・29日)

#### 《協議事項》

■第4回議会定例会提出議案  
◇令和7年度一般会計補正予算

#### 《その他》

■比布町生涯学習推進審議会条例案

### 総務企画課

#### 《報告事項》

■第5回議会臨時会提出議案  
■第4回議会定例会提出議案  
■表彰について



## 道北バスの支援

〔説明〕 令和7年9月末の輸送実績が確定したことに伴い、本町への支援金要請額が確定した。名寄線と愛別線の2路線で655万7千円。

## その他

- ◇複合庁舎建設
- ◇財産の貸付(旧蘭留小学校転貸借)
- ◇事業者(株)IMOベーション
- ◇事業内容)地元産サツマイモを使った加工品開発等。
- ◇契約期間)令和7年10月1日～令和8年12月31日

## 《協議事項》

### ■第5回議会臨時会提出議案

- ◇議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正案
- ◇特別職の職員の給与に関する条例の一部改正案
- ◇職員給与に関する条例の一部改正案
- ◇令和7年度一般会計補正予算

### ■第4回議会定例会提出議案

- ◇連携中核都市圏形成に係る連携協約の一部を変更する協約
- ◇令和7年度一般会計補正予算

## 《その他》

### ■緊急防災会議について

Q 10月下旬に停電があったが災害対策本部は開かれたのか。  
A 災害対策本部は開かず、建設課・総務企画課で町内を巡回し、情報共有を図りながら対応した。

## 総務常任委員会

12月4日開催

## 保健福祉課

### 《報告事項》

■福祉除雪の報告について

## 産業建設常任委員会

11月26日開催

## 農林課

■青果物販売実績

■熊の日撃情報

【目撃件数】 11件

(令和7年11月18日現在)

### 《協議事項》

### ■第4回議会定例会提出議案

- ◇令和7年度一般会計補正予算
- ◇令和8年度農林課関係予算案

## 商工観光課

### 《報告事項》

■商工観光課関係事業経過報告

■令和7年度観光施設の利用状況

(1) 良佳プラザ・遊湯びっふ

(2) グリーンパークびっふ

(3) びっふスキー場

■地方創生臨時交付金を活用した事業

◇2025比布町生活応援商品券給付事業

【利用率】 98・6% (最終実績)

■ふるさと納税の状況

【件数】 2,229件

【金額】 5,857万5千円

(令和7年11月16日現在)

Q 現在、ふるさと納税返礼品は約200品あるが、体験型の返礼品は含まれているのか。

A 体験型の返礼品については、クーポンを活用して体験してもらおう形としている。宿泊費の変動に対応するため、クーポンによる取り扱いとしている。

### 《協議事項》

### ■第4回議会定例会提出議案

- ◇指定管理者の指定について
- ◇令和7年度一般会計・観光事業特別会計補正予算

## 建設課

### 《報告事項》

■建設工事の発注及び進捗状況

■除雪計画案

■まちづくり懇談会での意見・要望

### 《協議事項》

### ■第5回議会臨時会提出議案

◇損害賠償額の決定について

◇令和7年度一般会計・公共下水道事業会計補正予算

## 農業委員会

### 《報告事項》

■農地法及び農地バンク法による農用地集積状況

## 教育課

### 《その他》

■比布町生涯学習推進審議会条例案

## 産業建設常任委員会

12月17・23日開催

▼12月17日開催

## 農林課

### 《協議事項》

■法人設立に向けた協議について

▼12月23日開催

## 建設課

### 《協議事項》

■第6回議会臨時会提出議案

## 総務常任委員会調査報告

福祉除雪の持続性確保のため  
制度の見直しを求める

## (1) 調査の経過と内容

①比布町高齢者事業団 聞き取り調査  
「福祉除雪サービスの現状と課題」をテーマに比布町高齢者事業団から聞き取り調査を実施し、理事長および事務局長から制度運用の実態や課題について詳細な説明を受けました。

## ②比布町保健福祉課 聞き取り調査

比布町高齢者事業団の調査を受け、事業担当である保健福祉課から聞き取り調査を実施し、制度面の現状、課題認識、改善方針について回答を得ました。

## (2) 課題の整理

福祉除雪制度の利用者のニーズは「歩行する場所の確保」から「玄関前の広い除雪」「屋根の雪下ろし」などのサービスへと変わりつつありますが、現行制度はこうした変化に十分対応しておらず、制度の趣旨とのへだたりが生じています。

また、対象者の周知不足により、

本来支援が必要な世帯以外にも利用が広がっており、結果として事業団の負担増加につながっています。

さらに、担い手である高齢者事業団の会員の減少と高齢化が進んでおり、将来的なサービスの維持が危機的な状況です。

社会情勢による燃料費や賃金の高騰、インボイス制度への対応など、事業運営を取り巻く環境も厳しさを増しています。

安全確保の観点から屋根の雪下ろしを行えないことや悪天候により作業に制限がある一方で、利用者からの要望は増加しているため、サービスの提供と安全確保が大きな課題となっています。

以上のように、制度とニーズのへだたり、周知不足、担い手不足、安全上の制約、財政負担の増大といった課題が重なり、現行の福祉除雪制度は持続可能性の面で大きな課題を抱えています。

これらの課題は早急な制度見直しを行い、行政・事業団・住民が共通の認識を持つことが不可欠です。

## (3) 委員会としての提言

①制度の見直しを早期に検討すること

・利用者負担、除雪幅、屋根の雪下ろしの取り扱いなど、三者協議で示された見直し項目を早期に検討し、新制度は令和8年度を待たず、今年度、可能な部分から段階的に導入すべきと考える。

## ②現場確認の義務化

・申請受付後、担当課が現場を確認し、事業団と作業内容を共有する仕組みを整備すべきと考える。

## ③担い手確保策を進めていくこと

・担当課が検討している有償ボランティアの活用や、役場職員の副業による補助体制の検討、民間事業者との協力といった担い手確保策については、福祉除雪の持続性を確保するために必要な取り組みであると認識している。ぜひ推進すべきと考える。

## ④制度の趣旨を住民に再周知すること

・「除雪困難な方を対象とする福祉サービス」であること、除雪作業に

は限界があること、悪天候時には遅延が生じることなど、制度の趣旨等を広報等で丁寧に周知する。

## (4) まとめ

福祉除雪は、高齢者等の生活を支える重要な支援制度ですが、高齢化の進行と担い手不足により、今後の継続が極めて困難な状況にあります。

さらに利用者、事業団、社会福祉協議会、行政の間に生じている認識のへだたりが問題を深刻化させています。町として、制度の持続性を確保するための改善策を検討するとともに、利用者理解の促進が必要です。

総務常任委員会として、行政に対し制度の早急な見直しと持続可能な仕組みづくりを強く求めます。

(総務常任委員長 遠藤 是子)



▲除雪ボランティア連絡会議・講習



## 研修報告

上川・留萌管内女性議員研修会

# 女性議員のパワーに圧倒

今年の上川・留萌管内女性議員研修会は東神楽町にて開催されました。

出席者は「北は増毛、南は占冠、留萌市、名寄市、富良野市」など上川・留萌管内の各市町村から多くの議員が集まり、総勢32名となりました。こんなに女性議員が参加している研修会は過去最高です。女性の活躍に目を見張るほどでした。

講演1部は東神楽複合施設「はなのわ」の建設までの経過、2部はガーデナーの方からの講演でした。

「東神楽花を植える会」を竹内町議が再立ち上げ。町民募集に40名ほどが集まり、複合施設前の花壇づくりや整備をしています。

施設内のあちこちにドライフラワーが飾られ、生花でなく、枯れてもなお人々の心を癒してくれるドライフラワーに感動しました。

「すてきな笑顔と花のまち」という東神楽町のキャッチフレーズが体现されていて素敵でした。

来年の女性議員研修会は苦前町で開催されます。その町で活躍されている女性議員の皆さんに期待し、来年も参加したい気持ちです。

(遠藤 是るこ  
ハル子)



▲参加者の皆さんと集合写真

## 研修報告

全国地方議会サミット

# 議会改革の歩みと現状

全国地方議会サミットにオンラインで参加しました。

主題は「議会改革最新動向」「AIと議会」「主権者教育」などで、先進事例をもとに議論しました。

特に「議会改革と北川正恭。足跡を再検証する」が心に残りました。

地方分権改革とマニフェスト運動を先導してきた北川氏は、1995年から2期8年三重県知事を歴任、2000年「分権一括法」が制定され、その後2006年の栗山町議会の「議会基本条例」が歴史的な一歩となりました。マニフェストと議会改革が全国の自治体で進み、2元代表制としての議会の力が発揮されて来ていました。

2010年には地方分権改革が進んでいき「マニフェスト選挙」が3000件行われましたが、今は中央集権回帰が感じられバックラッシュの様相もあると北川氏は言う。「新しい発想で新しい価値を見つけて出して欲しい」と次世代の議員たちにエールを送り最終講義を終えました。

(遠藤 是るこ  
ハル子)

## 研修報告

上川管内町村議会議員研修会

# 住民目線で進める議会改革へ

令和7年11月6日に上川管内町村議会議員研修会が行われました。

はじめに、関東学院大学法学部地域創生学科教授 牧瀬 稔氏より「議会改革の現状と課題」について講演をいただきました。

「現在も議会改革という言葉は多く使われているが、改革の目的が曖昧になり、ランキング上位を目指すなど形式的な側面が強調される傾向がある。本来、議会改革は住民福祉の増進を達成するための手段であり、行政監視機能・政策立案機能の強化が目的である。」ランキングにとらわれないことが大切です。

次に、弁護士の方の三輪記子氏より「最新裁判例から見るハラスメントの傾向と対策」について講演をいただきました。

「ハラスメントは多様化して様々な場面で発生しており、企業の評判を落とす人材確保の観点からも大きな問題となります」何気ないひと言が相手を傷付けてしまう場合があるので注意が必要だと感じました。

(谷口 雅浩)

総務常任委員会・産業建設常任委員会

# 合同行政視察調査

本町における福祉の充実及び災害発生時の対応、農業のさらなる振興等に向けて、石川県の「社会福祉法人<sup>ぶつしえん</sup>佛子園（<sup>ぎやうぜんじ</sup>Q's行善寺）（Shake金沢）」や「金沢市農産物ブランド協会」など5か所を視察・調査しました。

## 震災からの教訓 備えは地域を守る力に

能登町は能登半島の北部に位置し、平成17年3月1日、能登町・柳田村・内浦町が合併して誕生しました。

産業分野では、豊かな自然を背景とした第1次産業が町の基盤となっています。

令和7年10月1日現在の世帯数6,838戸、人口1万3,896人となっています。

令和6年1月1日（月）16時10分頃、マグニチュード7.6の地震が発生しました。能登町では、震度6強の揺れを観測し、津波も発生しました。

役場危機管理室 道下政利氏によると、被害情報が把握できない中で開始された避難所設営だったそうです。「少しずつ情報が集まり、備蓄品を避難所に送る手配を始めたが、職員が少ない上、道路状況も不明であり、年末年始の帰省者

で人口は、1.5倍になっていた。

備蓄品は圧倒的に不足していました。厳しい中でしたが、平時に築いた地域コミュニティが災害時に大きな役割を果たしました。各区長や消防団、漁協職員などの協力があり、乗り切ることができました。「経験から得たものとしては、「いざ」という時に誰の力を借りるのか想定しておく、地域コミュニティとの情報共有や顔の見える関係づくりが助け合う力になる、被災経験のある自治体や民間の協力を得ることが復興への後押しになる。」とても説得力のある説明でした。

我が町も備えは万全にしなければならぬと思います。知らされた研修となりました。

（総務常任副委員長 谷口 雅浩）

### 【石川県能登町の概要】

能登半島の北東部にある自然環境に恵まれた町で、四季折々の農林水産物がある。

農業では、稲作をはじめとして、ブルーベリーや能登牛が特産品となっており、漁業では、イカ釣漁業と定置網漁業が全国的にも有名で、定置網で獲られたブリは「宇出津港・のと寒ぶり」としてブランド化されている。





令和7年に65周年を迎える社会福祉法人。廃寺を活用して地域交流施設を開設したことから始まり、現在は石川県内に福祉を核としたさまざまな施設・事業所を展開している。

世代や国籍、障がいや疾病の有無に関わらずつながり合う「ごちゃまぜ」のコミュニティづくりに取り組んでいる。



B's 行善寺施設内（左：売店）（右：蕎麦屋）

## 大規模な法人施設 幸福度の高い職員と 利用者に驚き

石川県白山市にある社会福祉法人佛子園「B's 行善寺」「Share 金沢」へ訪問しました。

白山市は人口約11万人で、石川県内では金沢市に次ぐ2番目に人口の多い都市です。

佛子園は障がい者・高齢者・保育・医療・まちづくり事業と幅広い事業に取り組まれています。

従業員は約1,000名（非常勤職員含む）、年商約100億円の事業規模で、組織図を拝見すると、9地域にグループホームが35か所、それぞれウェルネスも設置されており、「一見してレジャーランドみたい」との感想があつたほどです。スライドでの事業紹介とグルー

プホームの見学、昼には施設内の食堂で「天ぷらそば」をいただきました。デイサービスで来られていた高齢者の方とヘルパーさんの会話が楽しそうで声を掛けました。「ここは楽しいよ。障がいのある方も働いていて、すべてがごちゃまぜで分け隔てないのがいい」と言う。そんな社会がここにはあった。

障がいのある方も気さくに声を掛けてくれて「北海道から来たの？何の用事で来たの？」と不思議そうに尋ねてくれました。

また、突然輪に加わってきた男の子は「結婚して欲しい」と抱きついてくるほど人懐っこく、その場は自然と笑顔に包まれました。

この施設内には温泉がでっており、関係者以外の地域住民にも開放され、入湯できるようになっています。オープンな関係性もとても素敵です。

「あらゆる世代にまたがつて、まちづくりをしているのは「Share 金沢」が初めて」と理事長の雄谷良成さんは話され、そのコンセプトで暮らす方たちは幸せだなと思いました。

（総務常任委員長 遠藤 ハル子）



Share 金沢施設内

### 【石川県白山市の概要】

白山国立公園や、県内最大の流域を誇る一級河川手取川、白砂青松の日本海など、山・川・海の豊かな自然に恵まれた地域で、「白山手取川ジオパーク」は、2011年9月5日に日本ジオパークに、2023年5月24日ユネスコ世界ジオパークに認定されている。

総面積は754.92km<sup>2</sup>であり、石川県全域の18%を占め、県内最大の広さ。

## 【やなぎだ植物公園】

四季折々の花を咲かせる園内には、天体観測・プラネタリウム「満天星」をはじめ、アストロコテージもあり宿泊可能。

またカフェ&レストランではブランド肉を使った「能登牛ステーキ」などのメニューをはじめ、能登町の美味しい料理を味わうことができる。



能登町やなぎだ植物公園は、町営の施設で「能登らしさに出会える花と緑と星空のパーク」として、約30ヘクタールの総面積（内18ヘクタールが自然林）に、桜4種620本、花菖蒲60種10万株など、生態別に分類整理された植物園が遊歩道によって結ばれています。

また、星の観察館「満天星」にはプラネタリウムや口径60センチメートルの反射望遠鏡を備えており、この天文施設で4つの小惑星が発見されています。

開業は昭和61年で現在は合同会社能登みらい創造ネットワークが指定管理者として、管理運営しています。

## 観光施設の多様な活用の可能性

開業の目的は、観光であったが能登半島地震を経て、その役割が近隣自治体住民の癒やしの場としても活用されるようになったようです。言うまでもありませんが地震発生時には、その広大な面積を活用し、避難場所としての機能を果たしていました。

現在は、様々な教育を体験する場としても活用され、木育、食育、星育などの最も充実した施設として、認識されています。

令和2年4月から管理運営を行っている能登町の合同会社能登みらい創造ネットワークの代表から、運営についてのご説明をいただきました。

最も印象的だったのは、コロナ禍での引き継ぎの苦労や震災発災時の計画を遂行できなくなってしまったことへの絶望的な心境から、一転して希望へと変えていく様々な出来事を聴くことができたことです。

元々、天体観測施設などがあつたり、能登の自然が十分に盛り込まれている施設であるのに活用されていないことに目を付けていた現代表が、その活用計画やそれによって集客も採算性も計算できると考え、指定管理を受けるための法人を立ち上げたとのことでありました。

もちろん、震災発災時には、観

光場所としては活用されないであろうと考え、避難場所としての役割を考えていたようですが、それによって、それまで来たことなかった人が来るようになり、震災前より、活用人口、関係人口が増えることとなりました。

さらにSNSの活用によって、輪が広まり、待ち合わせ場所として活用されるようになるなど、地域のランドマークとしての地位を確立しています。

現在は11月15日に新たな施設が誕生したり、様々なイベントが開催されるなど、住民に愛される公園としての活用を広げています。

（産業建設常任副委員長 植西 浩二）  
うえにし こういち





## 金沢市農産物ブランド協会

城下町金沢には、藩政時代から受け継がれた季節感に富んだ特産野菜、加賀野菜が数多く引き継がれている。

消費宣伝や販売促進活動等をとおして、金沢市農業の発展のため、各関係機関が協力して金沢市農産物ブランド協会を設立し、加賀野菜の生産振興や消費拡大に努めている。



# 特産品を未来へつなぐ ブランド化と流通強化

金沢市農産物ブランド協会では、その持続性の工夫やブランド野菜の現状と未来について、お話を聴くことができました。この協会は「加賀野菜」「金沢そだち」という2つのブランド野菜を守り、育てることを目的として設立されました。

加賀野菜は、加賀れんこん、加賀太きゅうりなど15品目を認定し、また金沢そだちでは、金沢の風土を活かして生産された、優れた品質や豊富な生産量を誇る多くの農産物があります。その中で、だいこん、すいか、なし、トマト、きゅうりを生産する農家を認証し、その中でも優秀な条件を満たしたものにだけ「金沢そだち」と表示して、販売しています。特定の販売店で戦略的に品質や価格を維持しています。

しかし、野菜を育てる環境が変化している中での維持は困難を極め、一部の品目について、すでに一軒の農家だけで作られているものや、都市化が進む金沢市の農地が宅地として分譲され、適した農

地の確保も課題となっていました。

環境の変化にはいくつもあります。温暖化により、春先の高温が苗の生育に適さなくなったり、夏の高温による病害虫が発生しているケースもあり、そのような中で苦勞した農産物も価格転嫁できず、跡継ぎがいても育てやすく儲けのある品種に移行するケースが多く、生産品目の偏りが著しくなっていました。

さらに6次化や販売チャネルの多角化については検討中であり、特に生産ロッドが減少傾向にあるものは諦めざるを得ない現状でした。

また、生産量の多い品種については、これからも多角的な活用方法を考え、農家の収入につながるよう研究を続けているとのことでした。

野菜のブランド化には、その生育環境に合った最適な成育方法を開発、研究しなければならず、非常に時間のかかるものです。そして、その成育方法が確立したと

しても気候などの環境が変わってしまったては、安定させるのにさらに時間を要することでしょう。

比布町には幸いにして、農業試験場があるため、開発研究には一定の基礎を見いだすための施設が揃っています。

冬いちごなど、閉農期の収入につながり、なおかつ収入を増やすための研究費用や期間を惜しんでいては、良いものがなかなか育たないように感じました。

以上、石川県での視察を今後の比布町のまちづくりを活かして、発展を遂げられるようつなげていきたいと思っています。

(産業建設常任副委員長 植西 浩二 うえにし こうじ)

### 【石川県金沢市の概要】

城下町として栄え、加賀友禅や金箔、九谷焼などの伝統工芸や、能楽や加賀万歳などの伝統芸能が受け継がれている。

日本の三名園の一つである兼六園や、金沢城、武家屋敷など様々な観光名所もあり、伝統文化と美しい景観を今に受け継いでいる。



広報委員が聞く！

# 町民インタビュー



## 「誘われたら断らないと決めてから」

わたなべ ひろまさ  
渡邊 博正さん（東町）



### Q 退職から2年、毎日の生活は？

20年以上住んでいる比布なのに、愛犬と散歩していても、親しく挨拶を交わせる人がほほいないことに愕然。「やりたがり」という元来の性格もあり、何でも誘われたら断らないと決めてからは、活動の範囲が広がり、ほんの少しですが町民になりつつあるような気がします。

### Q 今後の目標は？

物価高対策として、家周りをほぼ畑にすることです。食べ物を育てるのは本当に楽しい。今後は育てた野菜を無駄にしない「おやじ料理」を習得したいです。もう一つ、やりたいことがたくさんあるため、すべてに中途半端です。これを何とかしたいです。

### Q 議会に期待することは？

資源ゴミ回収の仕事を始めて、これまでの自分のゴミ出しを大いに反省しました。ルール徹底の工夫が必要かと思います。もう一点、冬の歩道の除雪について、車生活では気づきませんが、歩くのが大変です。子どもさんや年配の方が安全に歩けるように皆さんの力で少しでも改善していただければと思います。

（インタビュアー：遠藤 ハル子）

## 「子どもたちの魅力を感じる日々」

きむら のぶあき  
木村 宣昭さん（寿町）



### Q 比布町の子どもの印象は？

比布町の子どもたちは、みんなで一緒に行動する姿がとても印象的です。登下校の際には、自然に声を掛け合い、挨拶をしてくれます。

上級生が下級生を気遣う様子もよく見られ、そうした光景が比布町の子どもたちの大きな魅力だと思います。

また、先生方も朝早くから校門に立ち、子どもたちに声をかけながら安全を見守り、一生懸命取り組んでいることが、子どもたちの健やかな成長につながっていると感じます。

### Q これから挑戦したいことは？

元気な間は、できるだけ自分のことは自分でできる生活が続けたいと思います。

近くの病院へ自分で通ったり、短い距離であれば運転を続けたりしながら、住み慣れた町で安心して暮らしていきたいです。

### Q 議会に期待することは？

いつも議会だよりを読んでいます。

議会の運営方法が複雑だと感じる場合があります。運営が分かりやすく、住民が身近に感じられる議会であってほしいです。

（インタビュアー：佐藤 良彦）

## 編集後記



10月27日から3泊4日の日程で、道外研修の視察場所である金沢市に伺って来ました。

自分にとって2度目の訪問である社会福祉法人佛子園は、障がいのある方々と高齢者、子どもたち、大学生が1つの町内で「こちゃまぜ」で生活されていて、無料の温泉を通して町民の皆さんと素晴らしい環境を創出されています。

障がいのある方が持つエネルギーは高齢者の認知症を改善したり、研修を受けていた我々の会場に飛び入り参加してきて一人一人に握手やハグを求めて来て、場を和ませたり笑わせてくれたりと圧倒的な存在感を示してくれました。

我が比布町でも「こちゃまぜ」のまちづくりが出来たら、どんなに素晴らしいだろうと感じさせてくれました。

町内に住まわれている障がいのある方々と高齢者、子どもたちを町内で守るのは当然な事だと再認識させてくれた研修でした。

（佐藤 良彦）

### \*議会広報特別委員会\*

委員長 植西 浩一  
副委員長 佐藤 良彦  
委員 遠藤 ハル子  
大熊 勝幸  
谷口 雅浩